

甲斐駒ヶ岳～健児登山～

【報告者】 N本

【日時】 2018年1月1日-5日

【天候】 曇りなど

【参加者】 N本 M森

《 報 告 》

1/1 仕事終わりの元旦は約 11 時間 1000km の軽快なドライブに終わった。M 森号の助手席を倒しプールサイドのベンチのような体勢で休憩と運転を繰り返し 小湊沢 IC に 22 時頃到着。付近の「和風ファミリーレストラン」は 23 時頃まで定食を食べることができた。登山口となる竹宇駒ヶ岳神社駐車場に広く無料の駐車場には立派なトイレもあり、パートナーの不安になるほど静かすぎる寝息で車中泊は非常に快適であった。駐車場の標高は 790m ほどで、周りには 10 台程度の車が停まっていた

1/2 07:30 入山 神社にて初詣でしつつ通り過ぎ、橋を渡る、甲斐駒ヶ岳の標識もあり、わかりやすい。記録の通り雪はなく、落ち葉のラッセルをこなし標高をかせぐ。標高 1500m ほどから雪がチラホラ出てきたのでアイゼンを履く。

11:00 刃渡り 危険箇所と言われているが、鎖の補助もあり、雪が大積しない限りリスクは少なかった。展望は開け、八ヶ岳や地蔵岳のオベリスクを望むことができる。

12:30 五合目小屋跡 今まで登り一辺倒だったが、100m ほどの降りを経て五合目小屋跡に辿り着く。黄蓮谷はここからアプローチできるらしい、その後、目に見えて立ち足かかる急登を越えては降りを経て七丈第一小屋に到着。お互い自主トレに励んでいたとはいえ、テン泊装備+アイスクライミングの装備を持っての急登はなかなかに応えた。

14:00 テン場は小屋から 100m ほど離れた所に二段になって在る。展望の良さから上段を選んだが、後に風当たりが強いことを知る(世間の風ではない) 風が強く外で展望を、楽しむ余裕もなく、テントに引きこもりアルファ米の食事を済ませ、ノンアルコールで就寝。健全。

風は強まる一方で、ICI の Glight+スノーフライに MSR のブリザードステイクというペグで固定していたが、飛ぶのではないかと思うほど強風であった。翌日はピークハントを予定していたが、アイスクライミングに切り替える予定にした。

1/3 06:00 起床 強風は弱まらず視界も悪いため二度寝。

08:00 発 坊主の滝を目指す。小屋の管理人かつアルパインクライマーの花谷さんの話では、六合目の橋と五合目小屋跡の間にある尾根を下れば早く坊主の滝に到着できるということで、トレースを見つけ降っていくが、それは黄蓮谷左俣に行くパーティのトレースだったようで、三段の滝上部付近に到達する。そのまま沢を下り坊主の滝へ到着。トラバースはなかなかのヤブでした。

10:42 坊主滝に到着。傾斜はゆるいが雪を被っているので若干登りにくい。気温は低いのだが氷の内部や沢の水は流れており、N本の両足が沢沿いの水溜りに池ポチャ、影響はなかったが、アイゼンの紐が凍り脱着に非常に苦労することになる。

12:40 三段の滝 オブザベのみ行い、時間的な制限により左巻き、上部ピッチを切ったり、コンテで登りあがる。二人とも行動食を食べていなかったせいか非常にバテてしまった。

17:00 テント N本、若干の頭痛と咳を発症。冷たい空気を吸いすぎたのが原因か。貧弱貧弱ウ翌日午前中は好天の予定だが、06:00の山頂気温は-20℃ 風速 8m の予報であった。

1/4 04:30 起き 06:00 発

月に照らされた雪道のトレースをたどりながら甲斐駒ヶ岳の山頂を目指し登る、岩陵帯に当たるまではテン場からほぼ直上となる。

岩陵帯に入ってから岩の間をすり抜け東寄りの尾根を進んでいく。東の黄蓮谷側からの風が非常に強い。トレースをたどりながら登る、剣が突き刺さった岩の下部は急登の雪壁になっている。踏み外すと滑落する箇所はあったが難所はこの雪壁くらいであった。

07:30 山頂 とにかく風が強いが富士山、中央アルプス、八ヶ岳を見渡す展望は絶景であった。初詣を済ませて、途中で追い抜いたソロのカメラマンに写真を撮ってもらい、すぐ下山開始。テン場で荷物をまとめ、下山はやや急ぎ気味で約7時間歩き 14:00頃駐車場に到着。車を走らせ飯田市付近の宿に宿泊し翌日帰福。日中の車移動は非常に楽であった。

<所感>

N本: 厳冬期に長く休みが取れそうだったのでできるだけ長期で山に入りたいと思い、パートナーと相談しながら甲斐駒ヶ岳に行くことを決めた。決め手はやはり登り一辺倒の黒戸尾根をテン泊装備で登りたかった。体力豊富なパートナーにも恵まれアイスクライミングとピークハントを堪能できたのはとてもよかった。

実は初めての南アルプスであったので土地勘に疎いのではと心配したが、初運用のスマホGPSアプリも順調に活用でき不自由なかった。食事もノンアルコールにのみという軽量に特化することができ、装備面での失敗はなかったと思われる。*スノーフライはいらなかったかも。

下山して足と手先が軽い凍傷になっていたのは後日判明しました。それだけ寒かったのか? きつい、理解不能、でも絶景。だから山に登ってしまうのだなと、改めて思いました。

M 森: 今回の山行では予定通りにアイスクライミングとピークハントの両方を楽しめた。強力なパートナーのN本さんに感謝感謝。

自分の精神面、体力面での弱いところも自覚できたのでさらに精進せんといけんってのが反省と今後の課題である。

